胎内市

Tainai City Assembly

議会だより

平成22年
8月15日
No.22



海開き神事

7月16日　海開きに参加した保育園児たち（村松浜海水浴場）

第2回定例会　平成22年（6月15日～6月29日）　2～3ページ

一般質問　13議員　市政を問う　内容は本人の草稿によるものです。　4～10ページ

3常任委員会審査　10～12ページ

行政視察、閉会中所管事務調査　13～14ページ

政務調査費収支結果、議員発議　15ページ

平成22年 第2回定例会

本定例会では、補正予算7件、条例関係6件（改正5件、廃止1件）、財産の減額貸付について1件、市道路線の認定・廃止2件、発議4件、承認2件、報告8件上程され、全議案慎重審議の結果可決された。

主な審議

一般会計補正予算

予算の総額に歳入歳出それぞれ、2億2，900万円を追加し、総額を148億2，900万円とする。

歳出の主な内容は、各款においての、人事異動に伴う給与費の増減。

・民生費

「グループホーム黒川」のスプリンクラー設置に関する補助金として地域介護・福祉空間推進補助金を増額（723万2千円）

・衛生費

小学校3年生までとなっている、子ども医療費の助成について、本年9月から小学校卒業までに対象を拡大（1，200万1千円）

現在、許可制で行っている、し尿収集を委託制に移行するため、業務委託料を計上（2，760万4千円）

・労働費

子どもの放課後対策事業を始めとする、雇用対策事業に係る臨時職員賃金及び共済費等について、増減又は新規計上

（1，111万1千円）

・農林水産業費

畜産物及び乳製品製造の業務の委託を行うべく、地域産業振興事業繰出金の増額（484万円）

北成田地内の農道橋防護柵改修工事等を計上したほか、東牧地内の農道舗装工事費について、平成21年度予算への前倒しに伴い減額（280万円）

蔵王地内の市有林の作業道設置工事費及び間伐の委託料を計上（750万円）

・商工費

米粉を中心とした地域食材を活用し、地域の特産品づくりや、胎内市の観光振興を図り、地域産業の活性化に繋げる「地域共創ビジネス支援事業」にかかる地域資源活用調査業務委託料の経費を計上（690万円）

・土木費

社会資本整備総合交付金の内示を受けて施工する市道の整備工事費を計上

（5，199万円）

鴻の巣公園の芝張りとフェンス設置を行うための工事費の計上（830万円）

・教育費

農村体験学習事業に係る経費として宿泊施設等使用料等を計上（166万6千円）

築地中学校校舎の耐震補強工事費について、工法を変更したことに伴う増額

（5，985万円）

西学校給食センターの電気式消毒保管庫が老朽化し、入れ替えるための経費を計上（280万4千円）

黒川地区公民館の耐震診断委託料の増額

（112万4千円）

総合グラウンド体育館に係る耐震診断委託料の増額

（43万円）


本会議場

その他の補正予算

・国民健康保険事業特別会計
・黒川診療所運営事業特別会計
・農業集落排水事業特別会計
・観光事業特別会計
・地域産業振興事業特別会計
・公共下水道事業会計

条例の一部改正

・市職員の勤務時間、休暇等に関する条例及び市職員の育児休業等に関する条例
・市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例
・子どもの医療費助成に関する条例
・ひとり親家庭等の医療費助成に関する条例
・廃棄物の処理及び清掃に関する条例

条例の廃止

・市職員の寒冷地手当の支給に関する経過措置を定める条例

その他

・財産の減額貸付について
・市道路線の認定・廃止について

承認

・税条例の一部を改正する条例
・国民健康保険税条例の一部を改正する条例



※その他の補正予算、条例の一部改正等については委員会審査に詳しく載っていますので10～12Pをご覧ください。

市政報告
概要

少子化対策及び子育て支援の取り組みについて

子どもの医療費助成の充実を図るため、本年9月1日から子どもの通院医療費助成の対象を、現行の「小学校3年生まで」から「小学校卒業まで」に拡大する。これにより胎内市の子どもの医療費助成は、通院、入院ともに小学校卒業までが対象となる。

また、現在、黒川小学校区と築地小学校区の2か所において開設している「放課後子ども教室」を、もう1学区(胎内小学校区)増やす計画で検討を進めている。



吉田市長

住宅リフォーム助成制度について

昨年度に引き続き、市民が自己の居住する住宅等を市内の施工事業者を利用して改修工事を行う場合、その経費の一部を助成することとして、本年4月から、事前相談を行ったところ、約130件の応募があり、好評のうちに申し込みを終了した。

この住宅リフォーム助成制度により、多くの経済効果が生じるものと期待しているが、現時点では、今年度限りの制度としている。

来年度以降については、国の補助制度、市の財政状況等を勘案しながら事業継続の可否について考える。

胎内市観光交流センターについて

今年度中に、観光交流センターと近隣の樽ヶ橋遊園や、クアハウスたいない等の既存施設を有機的に結びつけることにより、相乗効果として、それぞれの機能を高めるとともに、子どもからお年寄りまで利用できる、憩いの場として活用されるよう、新たな機能を持ち合わせた樽ヶ橋エリアを構築するための「グランドデザイン」を作成する。

その際には、レストラン、物産販売所などについて、どのように工夫すれば設置することができ、しかも有効的に利用いただけるか、あわせて検討する。


観光交流センターたるが橋

公共交通施策に関する取り組みについて

デマンドタクシーの運行目的である、交通空白地域の解消等を念頭に置きながら、利用者の利便性を考慮し、高齢者、障がい者、高校生を対象とした定期券を導入するとともに、朝夕の時刻をそれぞれ1時間程度延長し、さらには運行エリアにJR金塚駅、JR坂町駅等を追加することで、今まで以上に利用者が増えることを期待している。

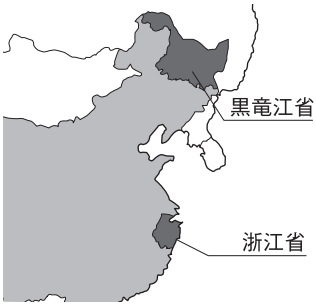
また、新潟交通観光バス㈱が運行する路線バスについて、昨年、デマンドタクシーの運行に併せて、中条・新発田線を除く6路線が廃止され、その代替として、通勤・通学時間に合わせた、朝夕の路線バス、4路線の運行が開始されたが、費用対効果の面で非常に厳しい結果となっている。

そのため、比較的利用者の多い「桃崎浜・平木田」線、「鍬江・中条」線は、引き続き運行され、利用者の少ない「小谷・平木田」線、「村松浜・中条」線の2路線については、本年4月から廃止。今年度も、公共交通が担うべき役割を十分に考えながら、利用者にとって利便性の高い公共交通サービスを提供するべく、住民、事業者等と連携して取り組んでいきたいと考えている。

中国との友好都市交流の状況について

黒竜江省の綏化市と、浙江省の桐郷市との友好都市交流については、「いずれか一方」という考えではなく、方向性を導き出し、双方の経済的なメリットを創出できれば、と考えている。

新潟市に中国総領事館が設置されたことを契機に、友好提携が実現するならば、新潟県や黒竜江省、中国政府に対しても大きなインパクトを与えることになると考えており、交流にさらなる弾みが付くものと思うので、10月頃までには具体的なアクションを起こすことができるよう、準備を進めたいと考えている。



質問・答弁の内容、文体は本人の草稿によるものです。



小野康男 議員

風力発電等人体安全環境は

議員　風力発電市域事業は反対ではないが、善良で好意的浜三集落四五九戸と業者が市長立合人で協定書発足。課題は、発生する電磁波と低音波。先進地で定住エリア内で、人体障害訴えの事例多々、人体の神経200種、千億超の細胞5万分の一、医学でミトコンドリア（ミクロの発電機）為にH10年国は障害防護指針策定、更に改訂中の折、強いては放射線で医学応用、電化品多用は、関る職員の健康防護、市長の所見伺う。

市長　この事業は集落密に推進の考えだが、国の新たな基準値、障害の立証の段階で、是正、指導を講ずる。

市政計画に付五項は

議員　市道線の幹線に市は、アンケート実施、計画の組立、見直しの所見伺う。

市長　最優先整備を望む考えを市民に聞いた。市は交通移動を中心に見直し行う予定である。

議員　駅西口の開設で、東片口の不便解消取組伺う。

市長　関係機関と支障ないとの回答得た。要望は計画策定参考に、課題協議中。

議員　市医療者は、人口の3倍強、安心して住める体制、充実が急務、市の更なる医療整備行政を伺う。

市長　市内病院含め新発田圏内輪番制で、救急体制確保に、更に検討重ねてゆく。

議員　特に女子中学生、他市町並、ガン予防ワクチン接種の実現伺う。

健康福祉課長　子宮頸ガンと承り、全国的の件、まず保護者、生徒方の啓発、理解求め、医師会の意見伺い、助成行政では前向に進めさせて頂きたい。

議員　市狭道ヶ所、緊急、災害時円滑車両通行に支障、主因は電柱、拡中至難ゆえ配線替の実施を伺う。

市長　電線の地下化、又軒下配線含め最良策考える。

学校施設の地域活用

議員　学校の地域防災拠点の重要性、市民の交流の場としても、又、市外者のグリーン農業体験等学校外の多面的活用を伺う。

教育長　学校教育分野外で、防災指定30ヶ所うち、小学7校、中学4校が、防災指定ヶ所で防災無線、衛星電話配備に整え関る物資の備蓄機能も発揮　社会教育推進は、教育に支障ない限り貢献、外来の農業体験の場は、担当課と交流事業推進は、市の別の施設も、学校の都合を相談し、前向に、活用頂きたい。



松浦富士夫 議員

個別所得補償モデル対策の効果と問題点は

議員　本年より始まった戸別所得補償モデル対策の効果と問題点をどのように認識しているか。

市長　効果として、主食用米等及び米粉用米等に対しての助成。問題点は、生産調整達成が要件になっている事や、選択制、交付金が全国一律になっている事と、過剰生産対策での政府買い入れが実施されない事等の課題があり、まだ、改善の余地があると認識している。

議員　市の、この対策の加入率と、生産調整達成率は。

市長　6月15日現在で、戸別所得補償対策の加入率は、約88%。生産調整達成率は、99・8%となっている。

議員　23年度で終了する、農地・水・環境保全向上対策事業の23年度以降の展望と、環境維持対策の考えは。

市長　本年度、国で中間評価を実施し、23年度以降の対策について、検討する予定と聞いている。今後の動向を注視していく。

消防団員活動環境改善について

議員　仕事関係等で、消防団員確保が難しい状況になっているが、どのように分析しているか。

市長　少子高齢化の影響もあり団員の高齢化が進むとともに、新規入団者が減少している事や、サラリーマン団員の増加で活動時間が限られる事等の課題がある。今後も、市報、ポスター等で、PR活動を行い団員確保に努めていく。

議員　地域の安全・安心は地域で守るのが原則と思うが、地域防災組織の拡大、拡充の考えは。

市長　23年度には組織率を70%に拡大し、今後も区長会議や説明会等で必要性を訴え、有事の際、協力・対応できる体制を整えていきたいと考えている。

児童福祉、子育て支援について

議員　放課後なかよしクラブは原則3年生までになっているが、地域の協力をいただき、子ども達の安全等の環境整備が必要と思うが。

市長　市では、地域ボランティアの参画を得て、放課後子ども教室を2ヶ所開設していて、今年度1ヶ所増設し、子ども達の放課後活動の充実を図っていく。

議員　一歩踏み込んだ子育て支援策としてゼロ歳児から2歳児までを対象に紙おむつ給付事業の考えは。

市長　子ども手当支給により事業目的が同じような自治体単独事業は縮小、廃止する傾向が全国各地で見られることから、市では、現在紙おむつを支給することは考えていない。



八幡行雄 議員

高速道路無料化と胎内市の反応は

議員 高速道路無料化を胎内市の対応で市民をとどめ、県内外から誘客し、喜んでもらう対策は何か。

市長 6月25日から7月25日までの期限付きクーポン券をパーキングで配布。又、近郷の市町村と連携して関東方面に観光マップを配布する。

議員 胎内市の中心は本町、三八市を中心に活性化の話し合いはないのか。

商工観光課長 デマンドを導入するとき、待合を置くことを中心に話し合い、今は観光協会を立ち上げ、街中だけでなく、奥胎内、乙宝寺、昔の町屋も含め検討している。

議員 朝市、三八市は歴史ある市場、様子を見るとお年寄りが電動車、自転車で買物に、休み場所、懇談する場所を設置してはどうか。又、三条市のカレーラーメンのように行政も加わり活性化し、誘客に努めたらどうか。

市長 三八市、本町の商店街については、商工観光、商工会、観光協会とも検討したい。

市内の施設でジュニアを全国に

議員 リゾート施設、ゴルフ場、スピードパーク、カヌー、ライフル射撃場で全国に通用する選手を育てることのできる指導者の育成が大切と思うが。

教育長 私も胎内市の施設には誇りに思う。しかし、一つの競技種目に特化した選手の育成より、健康的に楽しくスポーツに親しむ、総合型地域スポーツクラブを設立、スポーツ人口を増やし、底辺の拡大を図りたい。ライフル射撃場については、昨年、国体もあり、緊急雇用事業を活用し、運営、大会、選手の育成に力を入れてゆきたい。

市内の体育施設について

議員 市内には多くの体育施設がある。管理、指導は十分か。

教育長 市の施設は13、無人が7施設、各施設に指導者を配置する予定はない。

議員 陸上競技場のように100分の1秒を争う施設は専門の管理が必要と思うが。

教育長 整備は常勤職員に、公認検定は市の陸上競技協会に協力願っている。

ワクチンについて

議員 肺炎球菌ワクチン接種のその後の対応は。

市長 国・県内外の動向を参考に、実施に向けて検討してゆきたい。



丸山孝博 議員

「住宅リフォーム助成制度」など、経済対策の継続を

議員 地域経済は、引続き深刻な状況である。「住宅リフォーム助成制度」は2年間で助成額約1千8百万円、230件、約4億円の工事額。つまり、市が支出したお金の約23倍のお金が動いたことになり、抜群の経済対策になったことは明らかである。

しかし、市長は来年度以降についての実施は明確にしていない。不要不急の無駄遣いをやめて、市民のための予算にすべきで、「プレミアム商品券補助事業」も含め、事業の延長・拡充を求めたい。

市長 本年度の応募も好評のうちに申し込みが終了した。来年度以降については、市の財政状況等を勘案しながら前向きに事業の継続・拡充について考えたい。

更なる雇用の創出を

議員 依然として厳しい雇用情勢である。市として更に雇用の創出を図るべきでは。

市長 今年度1億2千万円の予算規模で、70人の雇用確保を図った。また、補正予算で9人分追加雇用した。

議員 市に雇用の申し込みをしている人数は。

総務課長 臨時職員・パート職員で、6月現在491名が登録している。

定住促進・人口増対策として情報サービス、施策の充実を

議員 市の人口は減少の一途であるが、市外からの移住・定住をより一層促進するための情報サービスや制度、施策の充実で、ずっと住みたい、住み続けたい胎内市の魅力を情報発信すべきでは。

市長 将来を見据えた中で定住促進事業に関する情報を広く発信していくとともに、全国各地の取り組み事例を参考に、市に即した施策に取組んでいく。

議員 市にはどんな子育て支援制度があるのか、定住のための援助は何があるのか、縦割りで、ばらばらである。まとめることによって、分かりやすい紹介ができるようにすべきだ。

市長 趣旨は十分わかった。PRについて、徹底したい。

風力発電の設置は慎重に

議員 環境省は4月から風力発電所から発生する低周波音が周辺住民の健康にどんな影響を与えるか調査を開始したが、その結果がでるまで、計画の実施は一時凍結すべきでは。

市長 稼働後の安全面においても積極的に関っていくので、一時凍結は考えていない。

中条駅西口整備の説明時期は

議員 地域住民に対する説明の時期はいつ頃か。

地域整備課長 7月にホームページ・広報等で意見聴取し、その後地域でも行う。

質問・答弁の内容、文体は本人の草稿によるものです。



佐藤秀夫 議員

胎内川の景観をそこねる雑木撤去は

議員　きれいな胎内川を生かすことについて伺う。川を塞ぎ、景観をそこねる雑木を撤去できないか。

市長　河川敷については雑木が生い茂っているため、その影響で護岸災害が心配されるところでもあり。管理者である県に雑木の伐採については要望している。県でも自然木が繁殖傾向にあることは承知しており、水位を監視し河川の正常な流れを妨げる時は計画的に対処するとのことである。市としても今後、河川を監視し要望していきたいと思う。

議員　ごみの不当投棄で川が汚染されているが、市の中心の胎内川を守るためにも対策が必要と思うが。

市長　市では、不当投棄防止に向けてパトロールの実施看板の設置をしている。そして胎内川は大切な市のシンボルでもあり、貴重な資源として保全に努める。認識のもと、地域ぐるみで環境美化に努めていく理念が将来に渡って引き継がれることが肝要であると考える。

議員　母なる川胎内川で子ども達が水遊びや魚とりの出来る様な環境づくりを県に強く要望出来ないか。

地域整備課長　今ほどの貴重なご意見頂いたので、県の方にまた強くお話をして行きたいと思うのでご理解いただきたい。

議員　道の駅並びに観光施設について市長に四点ほど伺う。各地で人気の足湯の設置と、樽が橋駐車場の街路灯、防犯灯の設置はできないか。

市長　利用者の安心安全のため、防犯灯の設置を進めて行きたい。

議員　樽が橋駐車場のトイレの雨樋の設置について伺う。

市長　これは建物の構造上の問題であるので、雨樋を設置することについては検討してまいりたい。

議員　クアハウス前の駐車場のトイレの美化について伺う。

市長　観光施設のトイレ数が不足、観光バスのお客を考え整備を検討していきたい。

奥胎内ヒュッテの通行について

議員　ブナ林の芽吹きがすばらしい、奥胎内ヒュッテまでの景観をアピールするために、胎内二王子公園・羽黒路線を5月の連休までに、通行を可能に出来ないか。

市長　除雪作業計画によると、5月の連休までに通行を可能にするのは困難であるが、計画の前倒しが可能かどうか、県と協議をしていきたい。



薄田　智 議員

「合併特例債事業」の進捗状況は

議員　合併特例債の現状と今後の計画は。

市長　平成27年度までに80億9千万円の起債が可能。今年度末で43億5千万円の借入額の見込み。今年度中に財政計画を策定するため、今後、調整し決定したい。

議員　現在行っている学校施設の耐震改修の状況によっては、当初予定していた残り14事業が、出来ない可能性があるのか。

総合政策課長　合併特例債以外に活用できる予算、あるいは発行可能期間の延長を国に対して要望し、10年間の中で当初の計画をすべて実施したい。

人口減少対策について

議員　本市の人口はこの5年間で1，358人が減少、特に若者の就職先が地元に無いとの理由でやむを得ず市外や県外に就職するという話をよく聞く。市独自の若者の雇用対策の考えはないのか。

市長　ハローワークや商工会、地元企業と連携し、「雇用促進協議会」の設置を検討し、対応していきたい。

高齢者の一人暮らし世帯の対応について

議員　胎内警察の調査によると昨年度の高齢者の孤独死は7人おられた。また、老々介護や高齢者を対象とした悪徳商法など犯罪に巻き込まれる可能性が高い。行政として更に何らかの対応が必要と考えるが。

市長　平成21年度の65歳以上の一人暮らし世帯は649人、二人以上の世帯は751世帯。孤独死の予防策としては、親族と連絡を取り合ったり、町内自治会や趣味の同好会など「社会との繋がりを持つこと」が一番と考えられる。今後は、地域ボランティア団体による訪問サービスや訪問介護などをはじめ、非常電話や緊急通報装置の貸与などを行っていきたい。

市職員の地元企業との人材交流・研修について

議員　これからは地域主権が益々進み、重要と考える。活力ある地域づくりは、まずは人づくりが第一歩である。市職員が地元産業や民間感覚を習得するためにも地元産業や民間企業との人材交流が必要と考えるが。

市長　地元民間企業と行政が相互に理解し合えることは有意義と考える。今後、その目的と効果について検討していきたい。

その他の質問

・総合型スポーツクラブの進捗状況について

質問・答弁の内容、文体は本人の草稿によるものです。



森田幸衛 議員

認定農業者に胎内市独自の支援制度を

議員 市長発言の「米1俵に1千円の支援」が実現可能で継続できるのなら米農家は大歓迎だが、財政状況から見て現実的には厳しいと思う。それより、地域農業の担い手である認定農業者が新たに農業機械・設備を導入する際に、国・県の補助事業のような難しいハードルが無い胎内市独自の簡潔明瞭な補助金制度を創設すべきと考えるが。

市長 現在の財政状況では市単独での助成はなかなか難しい状況にあるが、支援制度として施設や機械に対する助成を行うのか、あるいは所得補填を行うのか、それら可能性を総合的に考えていきたい。

ソーラーパネル設置助成

議員 胎内市は、クリーンエネルギーのシンボル的存在の風力発電を誘致した。さらに、省エネ政策を拡充していく手段として、新潟市や笛吹市のように、一般住宅用のソーラーパネル設置に関する助成制度を創設すべきと考えるが。

市長 来年度の当初予算に盛り込めるのか、厳しい財政状況ではあるが前向きに鋭意検討していきたい。

下水道接続助成について

議員 下水道接続工事費と、その世帯が納めた負担金の額に応じて算出されるリフォーム助成制度のような下水道接続助成制度を創設するべきではないか。

市長 すでに接続している方との公平性の観点や、下水道事業が経営的に逼迫（ひっぱく）している現状では、料金の値上げに結びつきかねないことから、当面は困難である。

庁舎内全面禁煙について

議員 「分煙」は吸う自由、吸わない自由を共存する社会の象徴である。分煙設備があるのに使用禁止にして、冬になると寒風吹きすさぶ自転車小屋で、というのはあまりにも酷ではないか。高速道路ＳＡの喫煙ルームのようにできないか。

市長 冬場になったら、その点、十分また検討していきたい。

議員 下水道接続工事費の80％にするべく未接続の世帯が、接続工事を行った場合、その工事費の合計は概算でどの位の額か。

市長 新たに1，364件の接続をしていただく必要があり、平成21年度の実績で1件あたりの工事費は約36万円なので、工事費の合計額は約4億9，100万円となる。



花野矢次兵衛 議員

大出バイパスの事業再開の可能性について

議員 建設工事が休止状態にある、大出バイパスの現状と経緯は。

市長 昭和63年に事業を開始、平成4年に交差点から海側は完成、山側は協力依頼活動を行ったが一部地権者から理解を得られず、平成7年に説明会を開催し休止とした。その後、平成21年に関係者全員から、事業再開について前向な回答が得られた。

議員 小中学校の通学路として必要では。

市長 道路幅員も狭く、歩道もない、交通安全上大変危険である、事業が促進されるように県に強く要望していく。

乙中学校体育館のステージについて

議員 市内の小中学校体育館でステージの無い学校は。

教育長 乙中学校だけが付帯施設としてのステージが無く可動式簡易ステージであり、他は付帯施設として体育館にステージがある。

議員 乙中学校関係者だけが侘（わび）しいと思うが。

教育長 建設当時の関係者で協議の上建設、ステージを設置する場合、構造上難しい、生徒の安全確保から耐震化工事を優先している。

議員 教育委員会で議題になる事は。

教育長 私の記憶では無い。

快適・便利な生活環境整備について

議員 ＮＴＴ光ケーブルの胎内市の敷設・利用状況は。

市長 ＮＴＴによれば、仮申込者の多かった中条地区全域に整備され、1，500世帯が利用している。

議員 敷設されない原因と敷設整備の見通しは。

市長 多額な投資が必要であり、利用者の見込めない地域は敷設整備する予定は無いとの事である。

議員 地域格差を少なくするのも行政の役割では。

市長 市内全域でＡＤＳＬが利用できる。国の目標は達成している。住民のサービス利用の意向把握に努める。

議員 行政が費用の一部を負担すれば、敷設の可能性は。

総務課長 敷設を求めている区域が少ない状況では無い。

その他の質問

・田んぼの生き物の生息調査について
・米粉用米（新規需要米）の今後について

質問・答弁の内容、文体は本人の草稿によるものです。



佐藤武志 議員

血税一千万円を使ってまで市民みこしは必要なのか

議員　街も祭り行事には、古くから山車、台輪、神輿、神楽、板額などの関連した出し物があるなかで、また、市民に周知をさせ協力を求めることも無く、一千万円の血税を使ってまで、神を入魂しない「市民みこし」の作成に補助金を拠出する必要があるのか。

市長　全市民が参加でき、他に誇れるシンボルとして、「市民みこし」を作成することは、価値があり、地域全体が活気づき、これこそ市が目指している市民主体の街づくりであり、市民協同そのものである。

議員　本来「市民みこしの会」は、市民に対して作成の趣旨を知って頂き、寄付を募ったうえで、その不足分を補助するのであれば分かるが、「みこしの会」が行政にお願いする主旨が逆ではないのか。

市長　市民の方々の公費であり、山車など文化的ものにも補助金を出しており、市民の協同ということで、お願いする。

議員　「市民みこしの会」の設立日とみこし作成の内容は。

総合政策課長　「みこし」は2基を作成し、大人用が一千五百万円、子ども用が五百万円となっている。

設立日が21年10月23日。

議員　次年度も、みこしをもう1基作り、一千万円の補助を掲げていたが、市長との話し合いの中で、次年度には補助をしないと言われたが、間違いないのか。

市長　今回の一千万円以外補助しない。

喫煙・禁煙について

議員　この四月から庁舎5階の喫煙場所を廃止して頂いたが、喫煙される方に対して、現在の一部自転車小屋内の喫煙場所に、外部からは中が見えるもので、風雪除けの囲いをつくる事が出来ないのか。

市長　現在、自転車小屋の改装に併せ、設備の対応を検討している。

マニフェスト・市政ガイドブックについて

議員　行政が行う各事業の経営、事業内容、予算の概要などを、市民に解りやすく示したマニフェストと、胎内市をより良く知るための、まちの概要、行政の内容などが記載されたハンドブックを作れないか。

市長　まちづくりの方向性は大切なことであり、要旨については市報に知らせている。また、ガイドブックは「トコトコたいない」を作成し好評を得ているところである。



桐生 清太郎 議員

観光振興の姿勢を伺う

議員　観光振興の姿勢伺う。

市長　多くの市民の参画を頂き観光振興に勤めたい。

議員　胎内市には、白砂青松の海岸線から渓谷美を誇る奥胎内まで、観光スポットは多様、今後どう活かすのか伺う。

市長　日本海に沈む夕日、浜茄子の群生地、北前船の寄港地、歴史を物語る観光資源等を有機的に結びつけ、誘導看板の設置など検討したい。

議員　町中商店街には、板額御前、板額太鼓、町屋や老舗割烹。生活に密着した三・八市は交流の商店街に移設は考えられないか。

市長　歴史的な町屋や寺社仏閣、会津八一にまつわる史跡や建物、三・八市や独自の町並み景観など魅力は多彩、市民に参加頂き、町歩きの楽しさを知らして行きたい。

議員　樽ヶ橋エリアは観光発祥地、観光交流センターの今後の機能及び周辺整備伺う。

市長　観光交流センター中心の憩いの場とし、グランドデザインを作成し、地域内の観光産業振興及び情報発信の拠点として活用して行きたい。

議員　胎内リゾートは拠点基地。教育関連施設の活用促進、スキー場のハーフパイプの設置などの考えは。三万人も訪れる胎内星祭など、このゾーンの更なる活用策伺う。

市長　豊かな景観に囲まれた、潜在型拠点として、発展の可能性を秘めており、計画に基づいて整備を進める。

議員　胎内川の最上流部、奥胎内の渓谷美、奥胎内ヒュッテ、このエリアの活用が大きなポイントになるのでは。

市長　奥胎内の渓谷美、紅葉、ブナの群生などに加え猛禽類の生態、野鳥の観察、渓流釣りなどの多面的に体験できる季節ごとの観光プログラムづくりを進めていきたい。

国道290号線通学路の歩道設置を早急に

議員　中学校の通学路国道290号線は持倉から坪穴間歩道がない、この間は大変危険な区間、過去に男子生徒が転倒、鎖骨を折るという事故があったと聞いている。ごく普通の、子どもを安全に通学させる事が、地域の人は大きな願いである。現在どのような状況なのか。

市長　危険性については十分認識している。県に対し、通学路の安全確保のため、道路拡幅と歩道設置を強く要望している。近々、「290号線期成同盟会」があり、また強く要望していきたい。

質問・答弁の内容、文体は本人の草稿によるものです。



新治 ひで子 議員

子宮頸ガン予防ワクチンを公費助成すべきでは

議員 ①子宮頸ガンは、「予防できる唯一のガン」と言われ、ワクチン接種と定期検診でほぼ100%防げる。しかし、必要とされる3回分のワクチン接種費用が約5万円と高額なため、個人負担が大きい。このガンは、20歳～30歳代の若い女性の妊娠や出産の可能性を脅かし、尊い命を奪う深刻な病気だ。一人でも多くの女性の命を守るために、予防ワクチンの接種費用を公費助成できないか。

②このガンは、定期的に検診を受けて早期発見、軽い手術によってほぼ100%治すことができる。受診率の向上に努めるべきでは。

③このガンについて学び、検診の必要性や効果について知ってもらう講演会や勉強会の開催は。

④ワクチン接種費用の支払は、医療機関が市に直接請求する方式を採用できないか。

市長 ①地元医師会の意見を伺いながら取り組みたい。

②定期的に検診を受ける必要性を啓発したい。

③広報や保健事業を活用し啓発を進めたい。

④地元医師会と協議し考える。

観光交流センターの整備は

議員 観光交流センターに立ち寄る大半の方々は、地域の物産販売所や休憩所、食事コーナーなどに期待している。周辺エリアのグランドデザインが完成するまでの間、市民や来訪者の要望に応急的にでも応えるため、屋根のついた「市内物産の販売コーナー」を設置できないか。

市長 仮設テナントを設置し、休日を中心に物産販売等の検討をしている。

鳥坂団地の公園整備は

議員 8号棟の計画や建設と併行して、早急に敷地内の整備計画を地域住民に示し、地域住民の意見や声を聞きながらできるだけ早く整備して、子ども達だけでなく、高齢者にも利用してもらえる、世代を超えた交流の場として提供すべきでは。

市長 早期実現に向け、地域住民と話し合いの場を持ちながら進めたい。

その他の質問

・動物を大切にする社会の推進について



小田英夫 議員

本町通りの活性化と街路の拡幅について

議員 昨年の10月議会において市長は、「都市づくりの具体案として、将来的ビジョンを確立する、都市計画マスタープランの策定を進めている」と回答しているが、そのビジョン策定に当たっては、「街路事業について詳細を盛り込んだ事業を進める」といわれたが、その進捗状況は。

市長 街路拡幅については、現在策定中の、都市計画マスタープランの中に位置づけた上で推進する。進捗状況としては、2月に学識経験者や県の関係機関、市民を策定委員とした検討会議で、新しいまちの将来像として、全体構想の素案を取りまとめたところである。

議員 街路事業における、筆界未定地については、隣地の境が明確でなく、用地買収も困難な状況との事であるが、その進捗状況は。

市長 市では筆界未定地の解消のため、立会い等の協力を惜しまない旨の説明を行い、理解を求めている。しかし、現在のところ解消には至らず、財政健全化計画との調整を図った上で、具体的な実施時期を決定したい。

市の活性化について

議員 活性化については、市の魅力をつくり出すことが重要と考えるが、どのように取組んでいるのか。

市長 市における現状や課題、魅力を理解、分析するため、昨年12月にアンケート調査を実施した。その結果により、方向性の把握を行い、都市計画マスタープランを前提として、市の特徴を活かした、まちづくりを検討する取り組みを行っている。

健康と生涯スポーツについて

議員 ゲートボール場の近くにトイレの設置はできないか。また、旧柴橋小学校の体育館及び旧本条小学校のグラウンドをゲートボール場として活用できないか。

教育長 財政厳しい折でもあり、すぐ隣に勤労青少年ホームがあることから、そちらのトイレを利用願いたい。また、ゲートボール場としての活用については、今後の動向を見た上で検討したい。



本町通り

質問・答弁の内容、文体は本人の草稿によるものです。



富樫　誠 議員

もったいないから もっと胎内へ

議員　地球温暖化や環境破壊を防ぐために、無駄を出さない、物を大切に、使えるものはリサイクルに、環境にやさしいエネルギーを使う、など「もったいない運動」が世界的に認められ、各自治体もこぞってその運動に取り組んでいる。もったいないをローマ字で書くと「MOT・TAINAI」となる。胎内市は新市名のアピールを兼ねて率先して取り組むべきでは、と3年前の一般質問で提案させていただいた。具体的に、ハード面では「統合小学校に太陽光発電装置を取り付け、自然エネルギーの利用を子ども達が直接学習できるようにすべきでは」の質問に「学校教育分野でも環境に対する施策として活用できる」と答弁通り胎内小学校に設置された。次にソフト面で市は「もったいない運動」にどのように取り組んできたのか。また、今後どのように推進してゆくのか。伺う。

市長　もったいない運動の提案をいただき身近なところから取り組んできた。冷暖房の温度設定の管理・照明の点灯消灯時間の徹底・コピー用紙の裏紙や使用済み封筒の再利用・本庁舎冷暖房機を個別熱源方式に変更・環境に配慮したグリーンマーク製品の購入・公用車へのエコカー導入などである。現在でも市役所内において、もったいない運動のポスターを掲示し職員の意識統一を図っている。

しかし運動が市役所内だけで展開してきたことも事実なので、今後は市民の皆様にも機会をとらえ「もったいない運動」の理念をお伝えする。市民の理解を得て推進するには大きな垂れ幕をはるなり、期間を設定するなり、ただ宣言するだけでなく、大きくクローズアップするような運動でなければならないと思うので十分庁舎内で検討する。

若者の「やる気」を育てる施策に力を

議員　新年度予算146億円のうち若者を元気にする予算があまりにも少ない。みこしの会ならず、山車の会、青年の会、そして消防団など行政の縦割りを超えて若者支援をすべきでは。

市長　少子高齢化社会にあって若者の力の重要性が更に増す傾向にある。若者が興味を持つこと、活躍できることに対行政が何らかの支援をする事は意義深く、個々の事例に則して柔軟に対応していく。

その他の質問

・財政運営と大型プロジェクト実施について
・道の駅の有効活用について

質問・答弁の内容、文体は本人の草稿によるものです。

3 常任委員会審査

総務文教常任委員会

市職員の勤務時間、休暇等に関する条例及び市職員の育児休業等に関する条例の一部を改正

「地方公務員の育児休業等に関する法律の一部改正が、6月30日から施行されるための改正で、配偶者の就業の有無や育児休業の取得の有無にかかわらず、育児休業、育児短時間勤務、部分休業を取得することができるようにする。また、夫婦が交互に育児休業を取得したか否かに関らず、職員が育児休業等計画書を提出して最初の育児休業を取得した後、3ヶ月以上経過した場合に、再度、育児休業、育児短時間勤務をすることができるようにする」

質問　実際には子供ができて育児をやるために休む場合、育児なら休めるということなのか。

答弁　簡単に言えば、子どもが誕生し、満3歳の前日まで育児休業が取得できるということである。

質問　最長で3年間取得できるということか。

答弁　そのとおりである。

質問　こまぎれでも取れるということか。

答弁　育児短時間勤務ということで、本人の希望によって勤務が可能である。

市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正

「畜産事業所等からの臭気チェックのために、乙、築地、下高田、中村浜の4地区にモニターを配置し、報酬を支払うために改正を行う」

質問　月に1回モニターから報告を受けるということだが、突発的な場合の対応はどうするのか。

答弁　突発的な臭気を感じたときは、市の職員に連絡を行い、職員は該当の事業所等へ行って指導を行う。

質問　事業所等への指導というが、築地地区は、養豚、養鶏、農家の堆肥等で臭い

の発生源がわからない場合があるが、その辺の指導も必要ではないか。

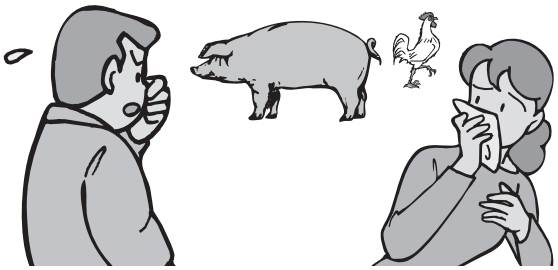
答弁　当然ながら職員に指導を徹底していきたい。

質問　モニターが通報した場合、即、対応は可能か。

答弁　悪臭の度合いが強い場合は、速やかにモニターから市に連絡が入るシステムにしている。

質問　年間24万円、月額2万円の根拠は。

答弁　毎日の業務を伴うため、県の最低賃金669円×365日で算出した金額である。



胎内市の設置に伴う寒冷地手当の支給に関する経過措置を定める条例を廃止

「寒冷地手当の支給が昨年度を持って終了し、この条例が不要となったため、廃止する」

財産の減額貸付について

「市有地を胎内高原ゴルフ倶楽部の用地の一部として新潟高原リゾート開発㈱に貸付を行っている土地賃貸借契約が満了したため、これまでと同額の貸付料で民事再生の期限である平成27年3月末まで貸付を行う」

質問　適正価格と減額貸付料の根拠は。

答弁　今回の減額貸付料は旧黒川村時代に算出した金額をそのまま据え置くもの。

質問　市の公有財産の維持管理に要する経費は発生するのか。

答弁　貸付地に対する市の管理費は一切発生していない。

以上、原案のとおり可決すべきと決定した。

厚生環境常任委員会

国民健康保険事業特別会計補正予算

「歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ548万円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ34億3，748万円とする。

歳出では、一般管理費、人件費の増額。人事異動に伴うもので、改正に伴う国保電算システム改修委託料、保健事業費、地域で活動するボランティア組織、100%連合会の補助によるもので、イベントや講習会、ジェネリック薬品購入費代も含む。県内で一斉に実施され、薬代の軽減、医療給付費の軽減に期待する」

質問　ジェネリック薬品を利用すると、どの位安くなるのか。

答弁　薬によって違うが概ね、約半額になる。

黒川診療所運営事業特別会計補正予算

「歳入歳出の予算に、歳入歳出それぞれ100万円を追加し、歳入歳出の予算の総額をそれぞれ1億2千万円とするもの。歳入では繰越金を増額し、歳出では電子内視鏡の老朽化に伴い、更新が必要になったことから、医療用備品貸借料を計上」

質問　機械の老朽化を年度当初でわからなかったのか。

答弁　当初は、まだ使用できる状態であったが、急に不具合が生じ、修理が出来ない状態でもあり、重要な機器であるため入れ替えするものである。

質問　施設の利用状況は。

答弁　21年度医療部門で、7，806人が利用、20年度は7，432人。

21年度歯科胎内で、1，900人の利用、20年度は2，007人。





農業集落排水事業特別会計補正予算

「予算に変更がなく、職員手当を増額し、共済費の減額を行うとともに、予備費でその減額分を調整」

公共下水道事業会計補正予算

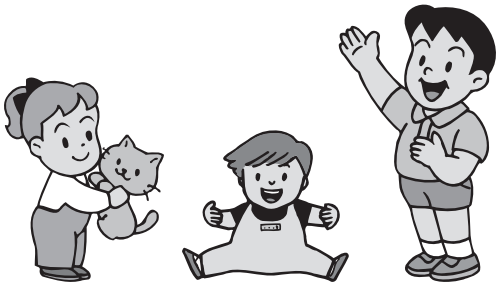
「職員の人事異動等に伴い、職員給与費を409万3千円を増額し、下水道事業費用の総額を8億4千109万3千円とする。

資本的収入の部では、起債許可見込みに合わせて5，920万円を増額し、総額を6億1，520万円とする。資本的収入の部では、人事異動等に伴い建設費に係る職員給与費を425万円減額し、総額を7億9，774万2千円とする。

また、企業債の限度額を建設改良事業について1，230万円、資本費平準化債について、4，690万円をそれぞれ増額。」

子どもの医療費助成に関する条例の一部を改正

「県では、本年9月から、子どもが3人以上いる世帯に限って小学校卒業までの子どもを助成の対象とするよう制度改正を行っているが、市では、子育て支援の推進を図るべく、さらに手厚く子どもの数や所得にかかわらず9月から子ども通院医療費助成の対象を現状の「小学校3年生まで」から「小学校卒業まで」に拡大するため、改正を行う」



ひとり親家庭等の医療助成に関する条例の一部を改正

「県が、本年度4月1日から、ひとり親家庭等の医療費助成事業実施要領の一部を改正したことに伴い、文言の整理を行う」

廃棄物の処理及び清掃に関する諸例の一部を改正

「合理化特別措置法対策の一環として、し尿処理業務を許可制から委託性へと移行するにあたって、当該条例中に、し尿1リットル当たり、10円の処理手数料を盛り込むために改正。

金額は今までと同額であり業務効率化のため、3社で組合組織を立ち上げ委託するもの。公共下水道、農業集落排水事業などにより、業務の需要は減って来ており、無くすことの出来ない業務である」

質問 リッター当たり10円は、消費税込みの今までと変わらない価格か、また支払いは市役所なのか、業者に支払うものか。

答弁 消費税込みである。支払いは、口座振り込み用紙で市役所に支払う。

質問 支払い窓口までの交通機関利用などの不便さがある。集金などの改善策は。

答弁 支払いに不便が生じると思うが、どの程度の支障が出るものか状況を見て判断する。

質問 歳出に記載はないが、予算の3，500万円の内訳は。

答弁 4月からは、300万リットルの収集が見込まれることから算出したもの。委託への支払いは手数料金額を上回ってしまうが、安全面から2名制にし、人件費を見込むことで、3，900万円になる予定。

質問 現在の汲み取りの件数は。

答弁 1，600件。



以上、原案の通り可決すべきと決定した。

産業建設常任委員会

観光事業・特別会計補正予算

歳入歳出それぞれ655万4千円追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ3億3，305万4千円とする。歳出は、胎内アウトレッツ館の入浴施設の一部開放による人件費等の経費、ビール園への、人事異動に伴う1名の人件費を計上。歳入は、一般会計繰入金と雑入でまかなう。

質問 入浴施設開放日の周知方法は。また、ビール園への職員1名増の仕事量やその内容は。

答弁 周知方法は、事前に施設前に掲示している。職員1名増は、クアハウスの指定管理者制度に伴う移動である。週2日休みだったビール園の販売部門が、6月1日以降は、通年営業にする。

質問 入浴施設の開放日は、何らかの形で市民に知らせる必要はないのか。

答弁 今後ホームページ等で対応する。今後の利用方法についても検討したい。

質問 「行ったら休みだった」「広報はこれから考える」など、日帰り入浴は、ついで仕事なのか。

答弁 周知とサービスに努めたい。10月末で終了予定。

地域産業振興事業・特別会計補正予算

歳入歳出それぞれ542万7千円追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ5億7，222万7千円とする。歳入では、畜産加工施設、チーズ製造施設を製造委託することにより施設使用料を計上。その他、一般会計繰入金、加工資材売却代を計上。製造委託の理由は、製造に必要な食品管理者免許の取得が困難であることや、製品の製造管理が十分にできないこと。チーズ製造施設では、職員が本年末で退職するため、平成23年1月1日より完全製造委託を予定している。歳出では、農畜産物加工施設運営費、畜産物製造委託料を計上した以外はすべて減額。乳製品加工センター運営費では、チーズ製造委託料を計上した他は減額。

質問 委託先は個人か会社か。

答弁 個人はあり得ない。ハム加工部門の食品衛生管理者免許は、通常は医者、獣医師が持っている。それ以外は実務経験を積んだ中で、研修を2～3ヶ月経て、講習会を受け、合格してようやくもらえる免許である。ハムもチーズも、毎日従事しなければならないので、個人で365日勤務するのは困難。法人への委託を9月までには決めたい。

質問 経営の見直しの1つか。

答弁 委託は製造だけ。市からの原料で、製品全量を活性化センターへ納入する。

質問 委託による歳出の削減は。

答弁 現在正職員2名。委託すれば、1人分の給与が削減できる。

市道路線の認定について

本郷、江上、鷹の巣地内の路線は、下越中部広域農道の整備に伴うもの。乙、桃崎浜地内の路線は、国道113号の乙バイパスの整備に伴うもの。現地調査の結果、市道として認定基準を満たすもの。

以上、原案の通り可決すべきと決定した。



市道路線の認定

行政視察研修報告　5月19日～21日

友好都市 笛吹市へ表敬訪問

旧境川村（現笛吹市）は板額御前が嫁いだ先であり、それが縁で平成8年10月に旧中条町と姉妹都市を締結した。合併して胎内市、笛吹市となってからも変わらず交流が続いている。

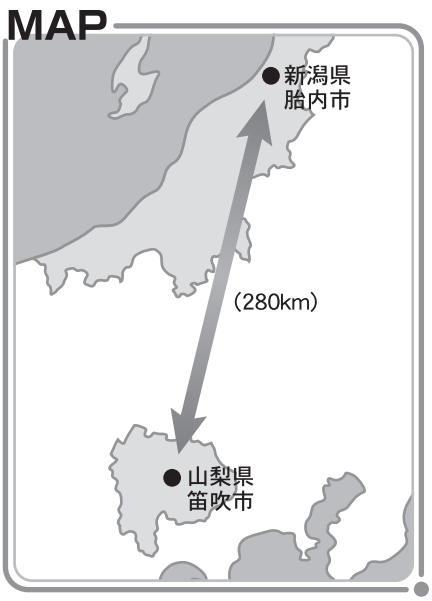

あいさつする斎藤議長

山梨県笛吹市

人口	71,000人
世帯数	26,800世帯
議員定数	24人


対応していただいた笛吹市議団代表

MAP




藤垈の滝、大窪いやしの杜公園（ミズバショウ）


板額御前が腰掛けた「帯石」

平成12年頃に旧中条町から寄贈された700株のミズバショウは現在3,000株に増え、観光名所となっている

史跡「帯石」の前で旧境川村長の角田氏より板額御前がとりもつ不思議な縁（えにし）の話を聞く

議会報編集　特別委員会
行政視察研修報告

当委員会は、4月26、27日の日程で、埼玉県鴻巣市㈱会議録センターと群馬県昭和村へ視察を行いました。

㈱会議録センター

胎内市も議会録などでお世話になっている㈱会議録センターでは、胎内市議会だよりのクリニックを目的に研修を行いました。会議録センターでは、加藤代表取締役社長をはじめ社長室長、編集部チーフなど大勢の方々に対応いただきました。

胎内市議会だよりを見て会議録センターの感想としては、表紙を人物写真のシリーズ化にしてみてもいいのではないか。裏表紙のモニター報告は、他市町村にないもので大変よいと思う。2～3ページ目、予算・決算のページは、目につく所なので市民が興味をもつ内容作りに取り組み、書体などに変化をつけ、関連写真などを入れる工夫が必要では。一般質問のページでは、文字を大きくし、関連写真を入れては。委員会報告のページは、視察先の報告だけでなく、胎内市にどの様に反映するかの意見書も載せては。全体的にレイアウトを変えてみてはなど、改善点の指摘を受けました。



昭和村議会の方々と

会議録センターが作成したテロップ付の議会中継映像に、一同関心を持ち、当市議会でも作成してもらいたいと感じてきました。

群馬県昭和村

昭和村では、議会だよりの編集・取り組みについて研修を行いました。加藤村長をはじめ議長、編集委員長などの歓迎を受けました。

昭和村は、町村議会広報全国コンクールで入選、奨励賞を2回受賞している議会だよりの先進地です。編集委員会は、議員数12名に対し8名で構成されていました。委員会開催日数、編集の流れは、胎内市とほぼ同じで、表紙・裏表紙も、胎内市と同じカラー刷りですが、2ページ目以降は2色刷りで文字も大きく写真も多く使われ、余白も多く余裕があり大変読みやすく編集されていました。表紙の写真は、人物シリーズ化に取り組み、内容にも、「あの問題は今・・・」や「地域でがんばる人」の追跡シリーズを組み、住民を引き込む内容になっています。写真も編集委員が撮影し、カメラにもこだわり、一眼レフカメラを購入していました。

全村民が、議会だよりを読んでくれるよう創意工夫を重ね紙面作りに取り組んでいました。

まとめに、今回の研修は、住民を引き付ける紙面構成、配列など学ぶ点が多くあり、今回の研修成果を、我が胎内市の議会だよりに反映させ、編集委員一同取り組んでいく所存です。

（文責　松浦）



企業誘致促進特別委員会
閉会中所管事務調査

6月22日副市長、総合政策課長及び担当係長の出席を求め、企業誘致促進特別委員会を開催した。

『企業誘致の進捗状況』

・胎内風力開発㈱ついては、関係3集落との協定書の締結を5月27日に終了した。計画では、8月着工予定。

・クラレメディカル㈱クラレ敷地内に、歯科材料主体の新工場を10月着工、操業24年12月予定。事業費53億2千万円、雇用108名予定。

・㈱クラレは、新製品製造工場の着工を11月に予定。23年10月操業予定。事業費48億円、25名の雇用が創出。

・ロイヤルインダストリーズ㈱鶏糞原料の肥料工場を、9月着工予定。雇用は5名程度。

『昨年のアンケート調査結果』

経済企業情勢厳しく、アンケートを全国3，000社、近隣県2，500社に発送したが、誘致に結びつく情報が乏しい。

『市内企業の動き』

・4月と5月に33社訪問した。業績が昨年と比較して、上昇した企業は18社、横ばい企業10社。

・新採用では、昨年度が54名。今年春採用48名と景気回復基調ではあるが、採用数は鈍い。

・新潟製粉㈱稼働状況は、4月の総製造量521トン、内新工場72トン。5月の総製造量467トン、内新工場195トンと製造量も軌道に乗り始めた。

『今後のPR活動』

高速道路のサービスエリアにリーフレットを設置した。新潟県出身経営者にアンケート500社、関西、中京圏に1，200社。食品開発店にアンケートを予定。

（文責　松井）

平成21年度

会派別政務調査費収支結果

（単位：円）

科目	政務調査費の内訳	政和会	緑風会	志政会	自由クラブ	日本共産党 丸山　孝博	公明党 新治ひで子	無所属クラブ 赤塚　タイ	中条市民クラブ 佐藤　武志	市民クラブ 松浦富士夫	無所属 高橋　政実
収入	3,060,000	1,080,000	600,000	480,000	240,000	120,000	120,000	60,000	120,000	120,000	120,000
支出	3,448,374	1,201,496	606,796	542,987	334,236	129,077	115,089	127,759	108,976	176,029	105,929
研究研修費	119,330	0	10,000	0	0	0	38,930	34,400	0	0	36,000
調査旅費	1,802,039	974,016	421,903	137,600	155,920	38,400	25,400	0	4,000	6,400	38,400
資料作成費	409,188	0	0	127,700	45,600	11,760	29,297	0	92,486	102,345	0
資料購入費	512,100	14,680	75,320	83,680	132,716	0	19,042	91,359	12,490	67,284	15,529
広報費	579,597	200,000	99,573	185,107	0	78,917	0	0	0	0	16,000
広聴費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
人件費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務所費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他経費	26,120	12,800	0	8,900	0	0	2,420	2,000	0	0	0
残金							4,911		11,024		14,071

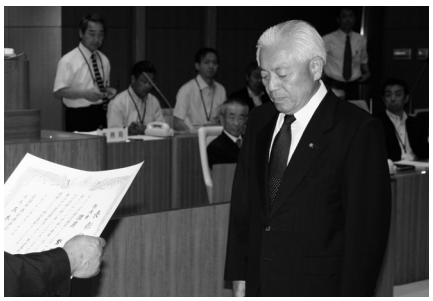
・政和会　9名：水澤　寅一　富樫　誠　小田　英夫　坂上　秋男　斎藤　貢　増子　強　花野矢次兵衛　八幡　行雄　佐藤　秀夫
・緑風会　5名：渡辺　宏行　渡辺　俊　松井　恒雄　森田　幸衛　薄田　智
・志政会　4名：菅原　市永　小林　兼由　小野　康男　桐生清太郎
・自由クラブ　2名：須貝　繁　鈴木　信雄

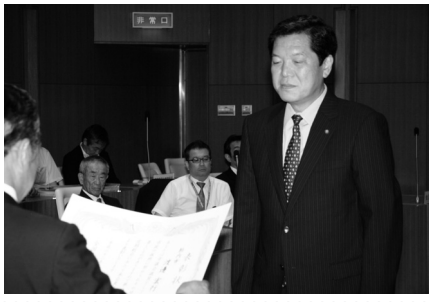
議員発議

- 市議会委員会条例の一部を改正する条例
- 市議会会議規則の一部を改正する規則
- 適正規模の少数学級実現、教員賃金改善、義務教育費国庫負担制度拡充を求める意見書
- 子宮頸がんを予防するワクチン接種の公費助成及び受診率向上対策の充実を求める意見書

議員表彰

市議会議員として、永年市政の振興に努められた功績に、全国市議会議長会及び北信越市議会議長会より、須貝繁氏、松井恒雄氏、渡辺宏行氏の3氏が表彰されました。







◆平成22年8月15日　◆発行責任者　議長　斎藤　貢
（☎（FAX）（0254）44−7875）　（0254）43−6111
〒959−2693
新潟県胎内市新和町2番10号
印刷／昭栄印刷株式会社

第2回定例会 傍聴記

匿名希望さん

当然と云えば当然であるが、質問議員は事前に質問に即したデータの調査・整理、現地視察等の事前準備を整えて望んでおり、それ相当の時間を要しているものと思われた。

質疑の中には的外れのものも感じられましたが此れはご愛嬌で、執行部との一体感を感じさせるものでした。

又、直接私達市民の生活に関係する議会なのに、相変わらず傍聴者が少ないのは極めて残念な事である。事務局の市民へのピーアールの仕方等のより一層の工夫が必要かと思います。

質問時間1時間に対して、質問項目が多く多岐に亘っており、質問に対する結論又は、今後の取組み等が不明瞭なのが残念であると感じた。

1時間の時間であれば、重点的に問題点を絞り込んで細部まで突っ込んだ議論を行い、取上げた問題の結論なり今後の方向性をより明確にすべきかと思います。（質問事項が多いのであれば、議会回数を増やすとか質問の回数を増やすとかの工夫が必要と思いますが……。）

又、これは議会の進め方の問題かと思いますが、質問者だけが質疑を行っており、他の議員は我関せずの感が有り、共通の問題であれば議員間の議論等があっても良いのではないかと思いましたが……。



〈議会報モニターアンケートより〉

（5月号No.21号を見て）

◎第1回定例会の概要について

一般会計予算、当初予算等について別紙に記載された事で、定例会の内容が良く理解出来た。また、写真のレイアウトが良かった。

◎一般質問について

一般質問は議会だよりだけでなくホームページを作り、そこに掲載したらどうか。

Ⓐ胎内市ホームページに掲載しています。

◎常任委員会審査

各委員会の活動がわかりやすくまとめてあったと思います。

◎閉会中調査について

厚生環境においては住民、養鶏場等の意見を聞いたうえで条例等の決定が必要ではないでしょうか。

◎予算審査特別委員会について

商工会補助金について、中条、黒川両商工会を胎内市一つの商工会としての運営は無理なのでしょうか？

◎表紙・裏表紙について

表紙のぶどう畑、良いと思うが今後どうなるのか？

貴重なご意見ありがとうございました。（編集委員）

議会の動き

H22年

4月	2・5・12日	議会報編集特別委員会
	21日	議会運営委員会
	26・27日	議会報編集特別委員会(行政視察)
5月	17日	議会運営委員会
	19〜21日	笛吹市行政視察(全常任委員会)
6月	7日	議会運営委員会 全員協議会
	15日	本会議(初日)
	17日	議会運営委員会
	18日	総務文教常任委員会
	21日	厚生環境常任委員会
	22日	産業建設常任委員会 企業誘致促進特別委員会
	24・25日	本会議(一般質問)
	29日	本会議(最終日) 議会報編集特別委員会
7月	15・16・26日	議会報編集特別委員会

編集後記

平成18年10月に26人体制でスタートした胎内市議会の任期がまもなく終了いたします。今回の6月議会の編集作業が私たち編集委員にとっても最後の仕事となりました。ハッキリ言って素人集団の編集委員でしたが、少しでも多くの方に読んでいただく為に、分かりやすく正確な紙面を心掛けてきました。感想を寄せていただいたモニターさん、傍聴記を書いていただいた方々をはじめ、ご愛読いただいた読者の皆さんに心から感謝申し上げます。

胎内市のさらなる発展と皆様方のご健勝を編集委員一同ご祈念申し上げ、編集後記とさせていただきます。（森田）

ご愛読ありがとうございました

議会報編集委員会

